

Projectを活用した授業実践(1) —生徒がアクティブに・統合的に 英語を使用する授業をめざして

谷口友隆 Taniguchi Tomotaka (相模原市立由野台中学校)

① はじめに

今回の NEW CROWN には、旧来の Mini-project に変わり、新しく Project というコーナーが新設されました。およそ3~4ヶ月に1回の割合で、学んだ表現や言語材料を総括し、統合的な活動が行えるように工夫されています。統合的な活動を行うメリットを私はこう考えています。

- ・生徒が自分の習熟に応じた取り組みができる。
- ・英語を実際に使うことにより、コミュニケーションの楽しさ、また達成感や伸長を実感として感じ取ることができ、学習への動機を引き出しやすい。
- ・生徒が主体的に学ぶ雰囲気を作りやすい。
- ・それぞれの創意工夫や個性・特性を活かした取り組みができ、生徒理解にも役立つ。
- ・実際に英語を使うことにより、間違いを訂正されたり、理解の不確かな部分に気づいたりすることを通して、それぞれの課題・習熟に応じて英語力の伸長を図ることができる。
- ・必然性を持って協働学習のスタイルを取り入れることができ、学びあいや生徒同士の交流を図ることができる。

語学は教師が教えれば上達するのではなく、生徒が豊富に練習しなければなりません。そのために、学習の一つのまとまりとして、生徒が主体的に取り組むことができる統合的な活動を仕組み、その達成を意識しながら日々の授業を組み立てています。この取り組みが先生方にとって、何かの参考になればと思い、これから数回にわたり、各学年の具体的な活動例とそのねらいや留意点についてお伝えしていきたいと思います。よろしくお願いたします。

② 1年生のProject実践例

今回は、NEW CROWN Book 1 から、Project 2の「友だちにインタビューをしよう—インタビューをして友だちの紹介文を書こう」の実践例をご紹介します。

このProjectでは友だちの紹介文を書くことが最終的なアウトプットと設定されています。これは、この習熟の段階で、友だちの紹介文として表現できる情報は、お互いに周知の事実が多くなってしまい、クラスの発表には向かないと判断されたからだと思えますし、実際その通りです。しかしながら、クラス内での発表を通して、相互理解を深められるように、また、コミュニケーションを中心に据えて、今後の英語の授業を組み立てていくためにも、1年生のうちから、少しでも発表の機会を作りたいと考え、私は教科書のProjectをベースにさらに少し工夫を加えて、「My Hero」と題して、「自分の尊敬する人物を発表する」というゴールを設定しました。

ターゲットとなる文法事項は「be動詞と一般動詞の3人称単数現在形の文を使い分けること」。同時に「発表を通して、お互いのことについて理解を深め、また英語の発表に慣れること」をねらいました。さらに、2年生の1学期に配置されているBook 2のProject 1「有名人を紹介しよう」につながるようにということも考えました。

教科書のProjectを行う前段階で、中学生に人気のある芸能人やスポーツ選手、また学校の先生をグループで1人決めて、その紹介文をつくり、1つのグループが出題者となって、誰のことを紹介しているかを他のグループが当てるというクイズをクラス全体で行いました。クラスメートの前で発表する時のハードルを低くするために、グループによる協働学習を取り入れて、クイズ形式で行いました。以

下に学習の段階を分けて手順の詳細をお示しいたします。

(1) Three Hint Quiz

教師がある有名人について、単語3語で表現し、それをヒントとして、生徒が誰のことかを当てるクイズを行います。生徒の語彙力を確認しながら、生徒が今後必要としそうな語彙をinputするねらいがあります。

例) America / a baseball player / curry and rice

(答) イチロー選手

comedian / fish / teeth

(答) 明石家さんまさん

(2) Three Hint Quiz (生徒版)

教師の例を参考にして、次は、生徒が3ヒントクイズを作成し、クラスで出題してもらいます。この活動では、生徒が自発的に、辞書を使って単語を調べたがるので、辞書指導に繋げることもできます。

(3) Guess Who Quiz

次は、教師が英文でヒントを作成して出題します。芸能人や教科書・人気アニメのキャラクターなどでもよいですし、学校の先生などにしても大変盛り上がりします。ここでは、3人称単数主語の一般動詞の文やbe動詞の文や他者紹介に役立つ語彙・表現をたくさん聞かせることに注力します。

例)

She is from Nagoya.

She has a sister.

She is good at skating.

(答) 浅田真央選手

He sleeps in the closet.

He is a robot.

He helps Nobita.

(答) ドラえもん

(4) Guess Who Quiz (生徒版)

生徒がグループで有名人を一人選び、その答えに対してグループで(3)のようなヒントの文をできる限

りたくさん作成させます。この時に過去に教師が(3)のクイズで出した文を印刷して渡しておく、生徒はスムーズに活動に取り組みます。ある程度の数の英文ができれば、その中からヒントとしてふさわしい文を各グループで3つ選んで、それぞれクイズを作成してもらいます。

この問題作成の段階では、実際に英文を作成する過程で、改めてbe動詞と一般動詞の文の違いや、3人称単数現在の-s、また、[主語-動詞-目的語-前置詞句]というような英文の構造について、生徒がそれぞれ意識することをねらっています。教師もグループの活動をそれぞれ見て回り、間違いがある場合は個別に指導することができます。また、同じ間違いが散見される場合は、改めてクラス全体での文法指導や確認を行うよい機会となります。

(5) Guess Who Quiz 大会

グループ対抗で、Guess Who Quizを行います。各グループがそれぞれ(4)の段階で、自分たちが作ったクイズを出題し、他のグループが解答者になってクイズを楽しみます。

(6) My Hero (教師のモデル)

教師やALTが“My Hero”と題して、自分の尊敬している人物についての発表を行います。発表を聞いた生徒が、それを完成のモデルとして、自分の作品のイメージを考えさせることがねらいです。また、過去の生徒の作品のなかでよいものを見せて、さまざまなパターンの英文に触れさせてあげます。

(7) My Hero 自己表現活動

教師のスピーチ原稿やGuess Who Quiz作成時の語彙や英文作成のノウハウを活かして、自分の尊敬する人(有名人・芸能人・スポーツ選手・家族・先生など)についてのスピーチ原稿を作成する。

(8) 発表会

教師によって確認済みのスピーチ原稿を、暗唱できるまでくり返し音読練習を行い、クラス内で発表します。

3. 実施にあたっての工夫と留意点

このような少し大きい活動を実施するとなると、多くの先生方の懸念は、授業時間の確保にあると思います。しかし、実施に当たって、1~(3)は帯活動として毎時間5分間など、少しの時間を取り、ある程度の期間続けて実施するようにします。(4)~(6)はそれぞれ1/2単位時間でできますので、(4)~(5)、(5)~(6)などと1時間の授業で行うことも可能です。(7)も1/2時間程度の時間を2~3回家庭学習も交えて実施すれば、40人の教室でも、それほど多くの時間を必要とする活動にはなりません。

それどころか、このような創意工夫を凝らして自分を表現する活動では、生徒がそれぞれに楽しさと必然性を持って考え、主体的に英語を「聞き」、「話し」、「読み」、「書き」はじめます。そして、これら4技能を生徒が統合的に学習することを通して、英語に触れ、慣れ、そして身につけていく様子をうかがうことができます。

英語教育界では現在Can-Doやアクティブラーニングという言葉をよく耳にします。くり返しになりますが、語学は教師が教えれば上達するのではな

く、生徒が豊富に練習しなければなりません。ですから、教師が教え込む時間を極力短くし、その代わりに、教科書を活かしながら、生徒が主体的に考えたり、学んだり、取り組んだりできる授業を考えていくことは、Can-Doや、アクティブラーニングの考え方に通じると思います。

4. おわりに

今回は発表を面白くするために、クイズ形式で、自分の尊敬する人物をテーマに行いましたが、教科書の活動をそのままゴールの活動として行ってもよいと思います。その際、構成的グループエンカウンター の書籍で『中学校編・エンカウンターで学級が変わる Part 1』(国分康孝)のなかに、「PR大作戦」という他者理解の活動があります。こちらは日本語での活動ですが、友だちへのインタビューを通して、周りの友だちに紹介しあう他者理解をねらったエクササイズの方法が示されています。構成的グループエンカウンターの手法も大いに参考になります。生徒の実態に即した適切なねらいを持って活動を組み立てていくことが大切だと感じています。

生徒の作品例

☆My Hero☆



My hero is Ms. Nittono.
She is a kindergarten teacher.
She lives in Kanagawa.
She is very kind.
She likes children very much.
I like children, too.
Do you like children?



She plays the piano.
Can you play the piano?
She draws pictures very well.
I like her.



【参考文献】

金谷恵(編)(2009).『英語授業ハンドブック 中学校編』株式会社大修館書店.
 国分康孝(監修)(1996).『エンカウンターで学級が変わる Part1 中学校編』株式会社図書文化社.